

参考資料・事業環境

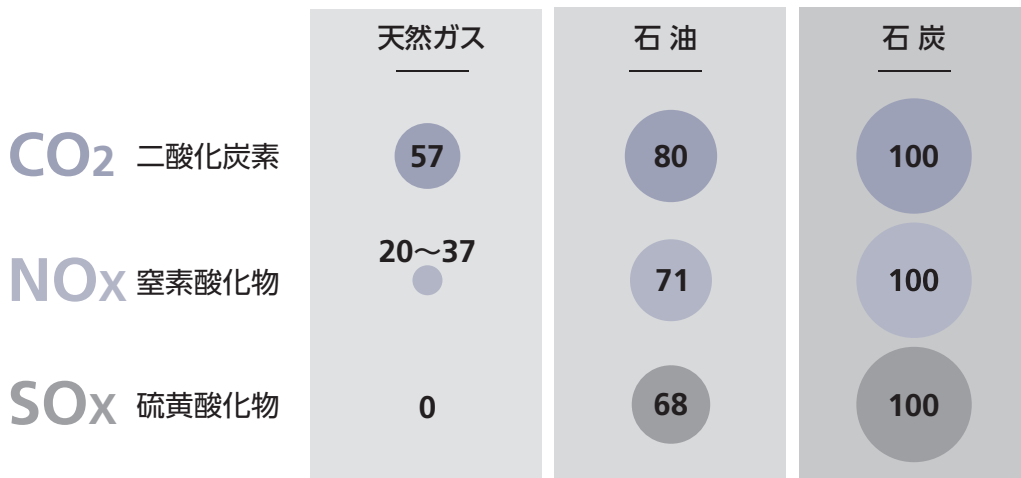
天然ガスの特性

天然ガスの環境性

天然ガスは、石油や石炭と同じく化石燃料の1つであり、メタンを主成分とするエネルギーです。石油や石炭と比較して地球温暖化の原因となる二酸化炭素 (CO₂) の排出量が少ないことが大きな特徴となっています。

また、天然ガスは燃焼中の窒素成分が少ないため、大気汚染の原因となる窒素酸化物 (NO_x) の発生が抑制され、さらに酸性雨の原因となる硫黄酸化物 (SO_x) を排出しません。

石炭を100とした場合の排出量比較



出典：(財) エネルギー総合工学研究所「火力発電所大気影響評価技術実証調査報告書」(1990.3) (CO₂)、IEA (国際エネルギー機関)「Natural Gas Prospects to 2010」(1986) (SO_xおよびNO_x)

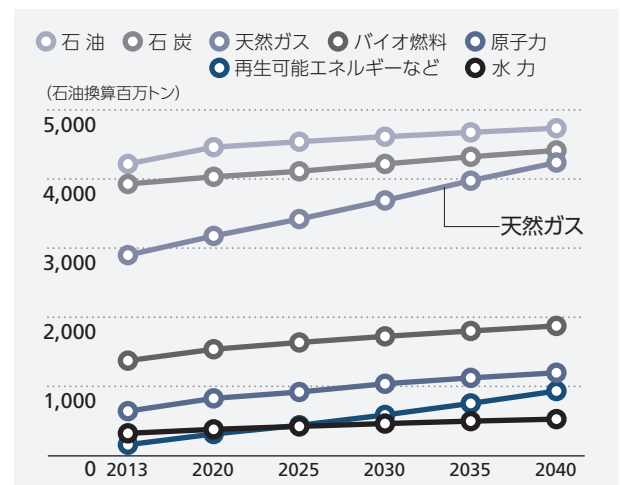
天然ガスの将来性

新興国でのエネルギー需要の増大や非在来型天然ガスの利用拡大、日本における電力需給環境の変化などにより、天然ガスが果たす役割は大きくなっています。IEA (国際エネルギー機関) では、世界のエネルギー需要は2040年まで増加し続け、より低炭素で効率的なエネルギーシステムの実現に向けて、世界の一次エネルギー消費構成比における天然ガスの割合が上昇すると予測しています。

天然ガスの供給安定性

天然ガスは、世界各地で豊富な埋蔵が確認されており、高まる需要に対して、安定的に供給することができると考えられています。なお、埋蔵量は世界の需要の50年分以上に相当します。

世界のエネルギー源別 一次エネルギー消費の見通し



出典：World Energy Outlook 2015 (New Policies Scenario)

日本のガス事業の特徴

ガスパイプラインの整備状況

パイプラインは地域ごとに整備が進められており、国土を縦貫するパイプラインはありません。

—— 主要導管網

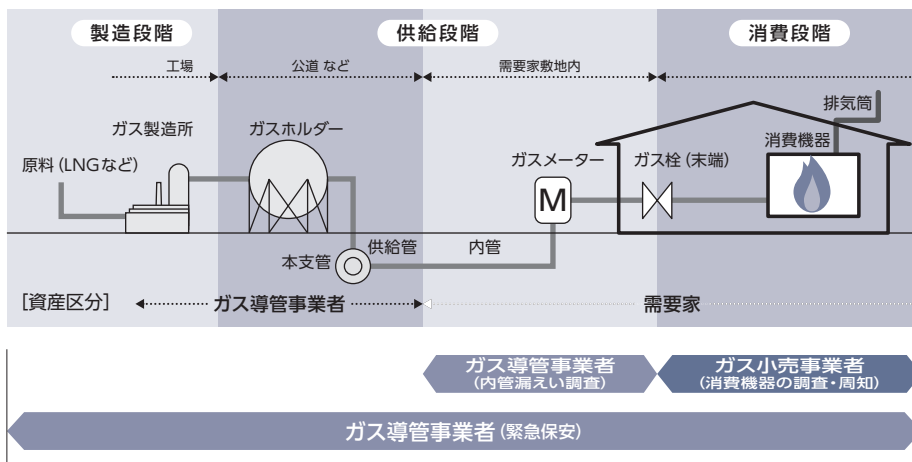


パイプライン敷設 (開削) 工事

保安責任

お客さまの敷地内のガス管 (内管) に直接接続するガス導管 (供給管) を維持・運用する一般ガス導管事業者には、消費機器と内管の緊急保安および内管の漏えい検査の義務が課されています。

なお、新規参入者を含む全てのガス事業者には、平常時、災害発生時ともに連携・協力する努力義務が課されています。また、消費機器 (ガス機器) の調査・危険発生防止の周知に関する義務が課されています。



保安責任
区分^{※1}

※1 保安責任: ガス事業法第28条に規定されるガス工作物の技術基準適合維持義務。

原料費調整制度

ガスの原料となるLNGやLPGの調達価格は為替レートや原油価格の動きによって変動します。こうした外部要因をガス料金に反映させることに加え、原料費以外での経営効率化の成果を明確にする仕組みが取り入れられており、これを「原料費調整制度」と呼んでいます。原料

費調整制度により、原料費の変動がガス料金に反映されるまでには時間差が生じるため、単年度の業績を考慮する場合には、ガス会社の収支は原料費の変動による影響を受けることになります。なお、中長期的な影響は中立です。

原料費の変動がガス料金に反映される仕組み (例)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
大口	平均原料価格	●	1ヵ月	料金反映			
小口	平均原料価格		●	2ヵ月	料金反映		
		平均原料価格		●	2ヵ月	料金反映	